

生有研シンポジウム 2019 開催

(令和元年 12 月 16 日)

12月16日、「生体分子間に働く相互作用解析法の現状と今後の可能性」と題して生有研シンポジウムを開催しました。8回目を迎えた今回は「物理化学的解析法」をテーマに、種々の手法を効果的に活用し生命現象に迫る研究を展開されている先生方5名（北海道大学先端生命科学研究院・北村朗先生、京都大学大学院工学系研究科・野中洋先生、福岡大学理学部・武藤梨沙先生、東京大学医科学研究所・長門石暁先生、横浜市立大学大学院生命医科学研究科・高橋栄夫先生）をお招きするとともに、生有研所員・野村薫の研究も紹介しました。聴衆には関西の大学11研究室から40名の若手研究者や大学院生、学部学生が参加しました。2012年から続くこのシンポジウムでは、学生・院生に積極的な質問とディスカッションを促し、Best Discussion 賞を贈って将来の科学人材育成を目的の一つとしています。講師の先生方が基礎から丁寧に説明しながら興味深い研究成果をご講演下さったことで、各種解析手法に馴染みのない学生も多い中、活発な質疑応答が行われました。また生有研所員も、自身の研究の展開を考える上で貴重な機会となりました。懇親会では、講師の先生方や学生同士でも交流が行われ、情報交換を行うことが出来ました。今回、素晴らしいご講演を頂いた講師の先生方、シンポジウムを大いに盛り上げてくださった参加者の皆様に心よりお礼申し上げます。



シンポジウムの様子



懇親会にて

Best Discussion 賞（右写真、左から）

（京大大院-薬）B5 森本 涼太氏

（京大大院-化研）M1 岩田 恭宗氏

中西重忠所長をはさんで

（大阪大院-理）M1 渡辺 宏史氏

（大阪大院-理）M2 平尾 宏太郎氏

（大阪大院-理）M1 入谷 健斗氏

